

放課後児童対策について
～「のびるんdeスクール」の
成果・課題、今後の方向性～

福祉教育委員会

令和3年11月22日
教育部 生涯学習課

1. 登録状況

(単位:人)

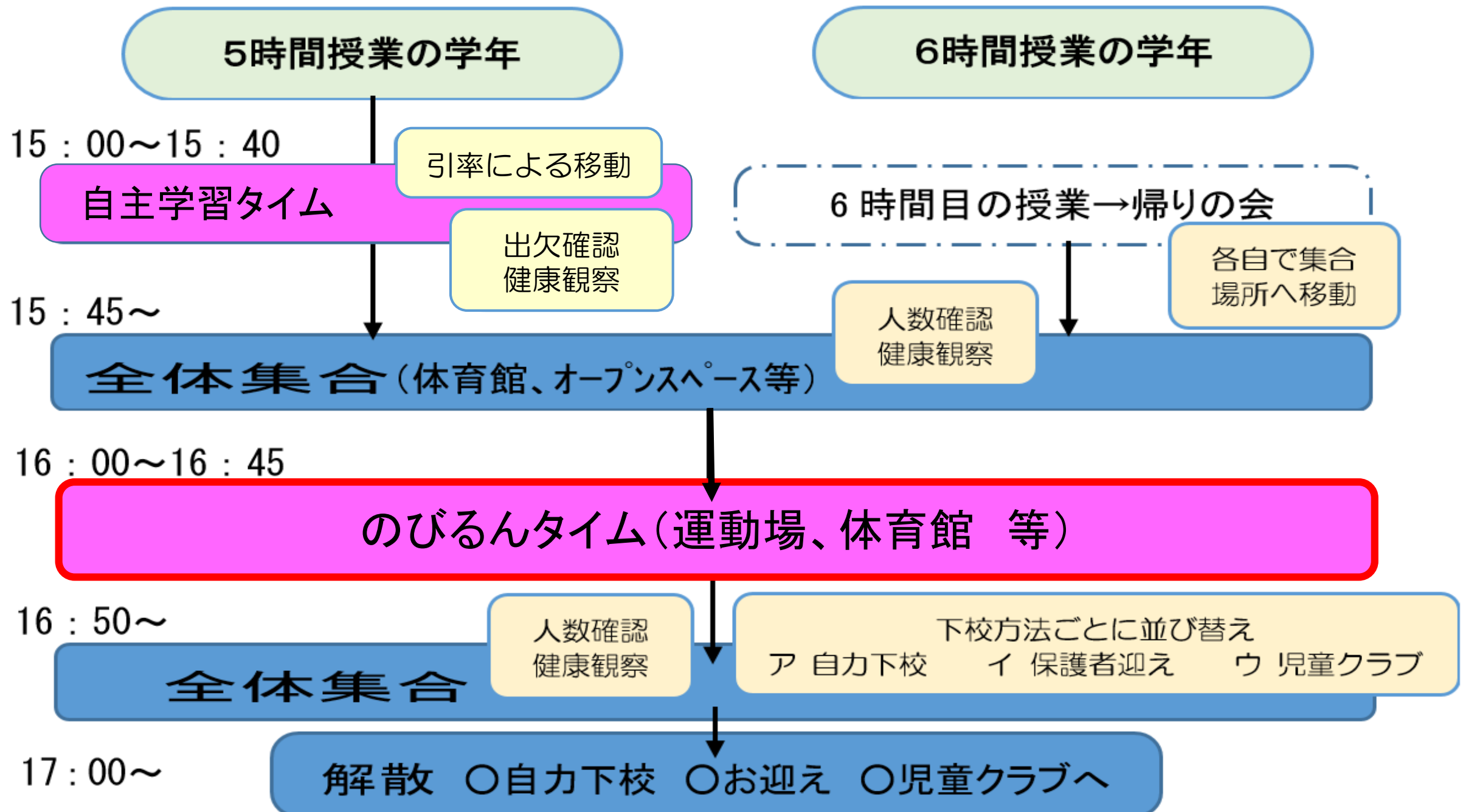
学校(全児童)	4月		5月		6月		7月	
	登録数	見方利用者	登録数	見方利用者	登録数	見方利用者	登録数	見方利用者
前芝(200)	41	11	60	23	63	23	62	21
牛川(591)	104	55	130	77	120	75	121	78
玉川(239)	27	11	36	15	40	21	41	22
二川(452)	118	59	137	84	133	60	126	60
老津(192)	36	21	42	23	41	22	52	26
富士見(379)	21	9	25	8	32	13	51	14
植田(296)	77	38	80	39	80	39	81	39
芦原(428)	91	36	103	47	108	48	112	50
栄(710)	121	82	137	90	146	95	149	96
汐田(535)	84	53	109	76	110	75	110	75
新川(270)	53	14	61	20	67	20	69	20
松葉(484)	123	48	127	56	125	55	129	52
登録数計	896	437	1,047	558	1,065	546	1,103	553

2. 指導体制

	A校	B校	C校
コーディネーター ■学校・児童クラブとの調整 ■特別教室講師との調整 ■指導員、サポーターの指導、統括 他		1人	
マネージャー ■参加者管理 ■現地運営支援 ■指導員の従事実績管理		1人	
指導員①(リーダー) ■現場統括 ■児童指導 ■カリキュラム設定	1人	1人	1人
指導員②(サブリーダー) ■リーダーの補助	2人	2人	2人
サポーター ■児童見守り ■児童移動時の引率	3人	3人	3人

3. 実施状況

活動の流れ(例)



のびるんdeスクールの活動

週4日 指導員計画の活動の例



自主学习



読み聞かせ



外遊び



折り紙

週1日 特別教室の例



体幹トレーニング



話し方教室



福祉体験

スポーツ教室（体幹トレーニング教室）



ダンス教室



音楽教室（ジャンベ太鼓）



英語教室



話し方教室



性教育



AED教室



出前講座



4. 使命 ～のびるんdeスクールが目指すもの～

1 全校での実現

- 全児童を対象とした事業であり、52校全校で開設

2 事業目的の遂行

- 大人との交流による子どもの健全な育成、社会性の向上
- 学校の授業にはない体験活動による子どもたちの能力発掘

留守家庭の垣根を越えた、放課後児童の一体的教育活動を推進

“全国初” 豊橋市独自の取組みの実現を目指す

5. 検証結果

使命

1 全校での実現

2 事業目的の遂行

進捗

- 令和2年度 2校
- 令和3年度 12校 (週5日)
- ※計画 R4:36校→R5:52校

- 指導する地域の大人との交流
- 異学年との交流
- 多様な体験活動(特別教室:週1日)

課題

- ▽公平性(未実施校区での早期開設)
- ▽放課後児童クラブとの棲み分け
- ▽財源の確保
- ▽スタッフの確保

- ▽特別教室の拡充
(内容・活動機会の一層の充実)
※R3保護者アンケート結果

3
つ
の
壁

- ① 市民の期待への早期対応
- ② 児童クラブとの共存
- ③ 特別教室(体験活動)に対する期待への対応

6. 検証結果から見えた「3つの壁」

①市民の期待への早期対応

実施校の児童は地域の大人やプロスポーツなど幅広い分野から支えられている。

⇒ 実施校区外の保護者から「不公平」の声が多い

②児童クラブとの共存

放課後の目指す姿として、民営児童クラブも活動に一定の理解はできるが・・・

⇒ のびるんdeスクールにより、登録児童が減るのは困る

③特別教室(体験活動)に対する期待への対応

特別教室を週1日としたが、保護者の思いは・・・

⇒ 特別教室(体験活動)の「充実」を望む声が多い

7. 「3つの壁」への対応策(案)

① 市民の期待への対応

公平性の観点から、出来る限り早期に全校実施できないか？

【A】
早期実現の方法はないか

② 児童クラブとの共存

民営児童クラブとの棲み分けをどう解決するか？

【B】
共存の方法はないか

③ 特別教室の期待への対応

保護者は特別教室の充実(実施回数の増)を望んでいる...

【C】
期待に応えられる方法はないか

活動方法の見直し(案)

I 開設日数の見直し

◎毎日ではなく実施日数を減らすことにより、早期に全校での開設に繋がる **【A】**

◎民営児童クラブの利用者減につながるものがなくなり、民営児童クラブの理解を得ながらの運営が可能となる **【B】**

II 特別教室の充実

◎特別教室の実施日数を増やし、外部講師等による体験活動を充実する **【C】**

◎のびるndeスクールが預かり事業でなく、児童クラブとは別々の役割と機能をもつ事業であることが明確となる **【B】**

8. 変更点のまとめ(案)

I 開設日数の見直し

II 特別教室の充実

現
行

12校 (週5日)

年間 200日/1校
【延べ2,400日】

週1日 特別教室

残りの4日は通常活動

移
行
後

52校※ (週2日と3日)

年間 80日/1校
【延べ4,160日】

全日 特別教室

全て外部講師等による特別教室
(体験活動)

※令和4年度:新規40校は2学期より開設予定

8. 変更点のまとめ(案)

I 開設日数の見直し

- ① 市民の期待への対応
- ② 民営児童クラブとの共存
- ③ 特別教室(体験活動への期待)

II 特別教室の充実

クリア

クリア

クリア

移行後

52校 (週2日と3日)

年間 80日/1校
【延べ4, 160日】

全日 特別教室

全て外部講師等による特別教室
(体験活動)

今の12校の保護者の理解は？

⇒保護者は日数より内容を重視

※R3保護者アンケート

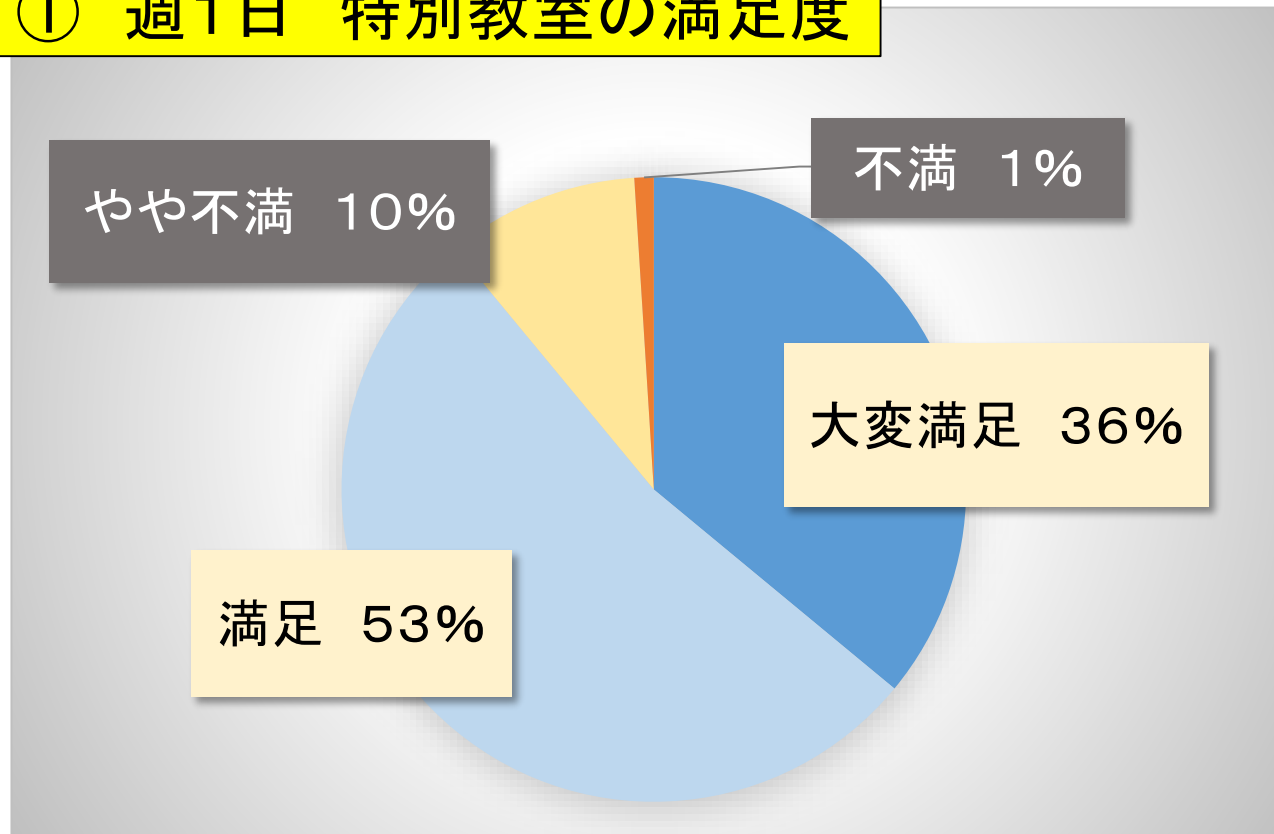
R3実績 約2.8日

事業費の大幅な増に繋がるのでは？

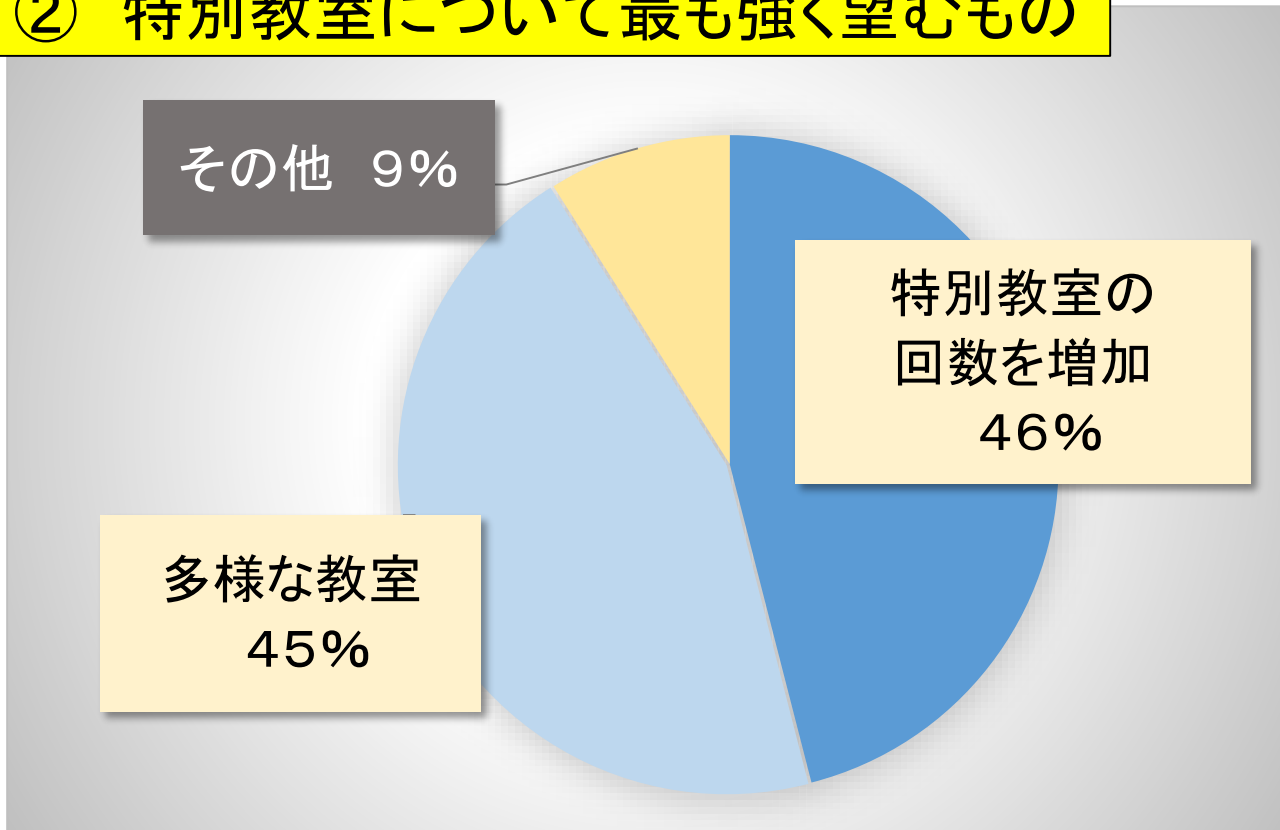
⇒放課後事業全体の事業費増
とはなるが、国庫、利用料収入
により市負担は大きく変わらない

9. 利用者の声

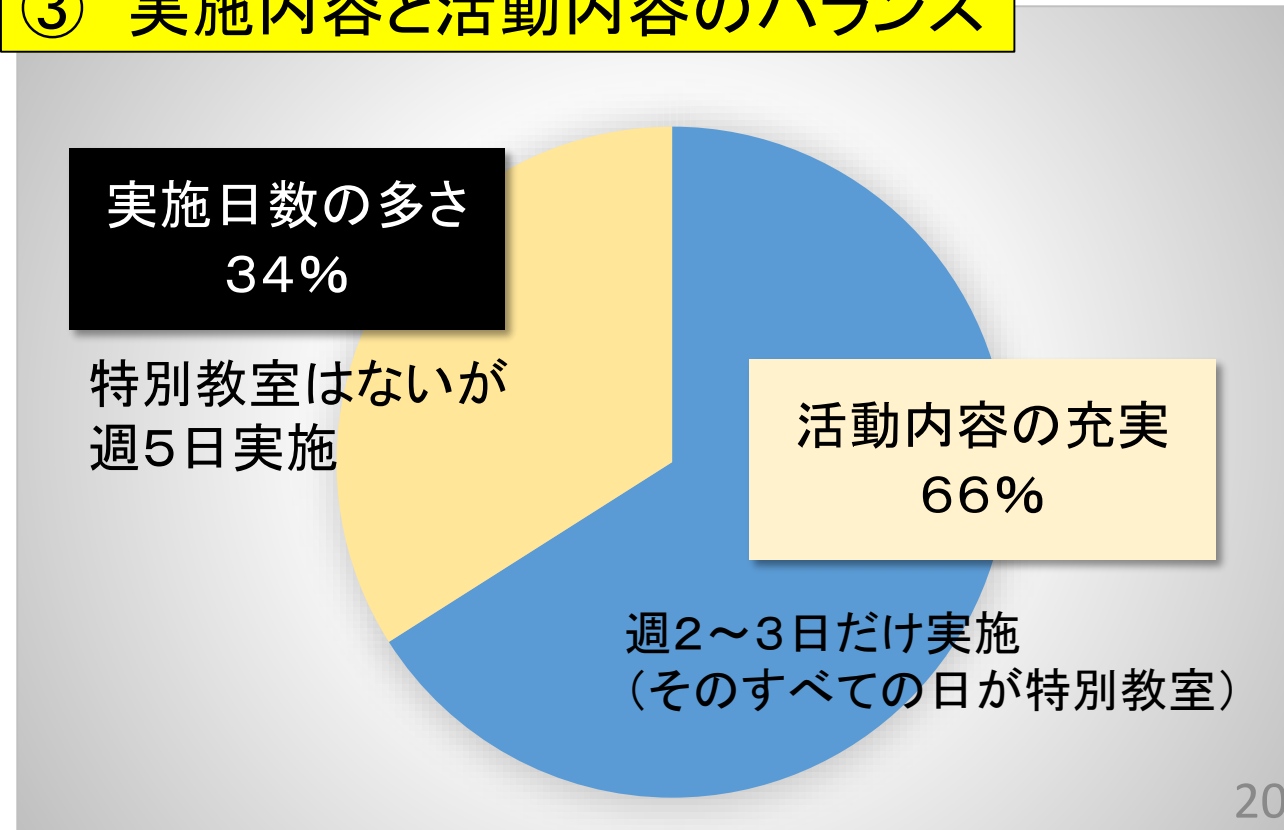
① 週1日 特別教室の満足度



② 特別教室について最も強く望むもの



③ 実施内容と活動内容のバランス



10. 放課後事業全体の事業費について

令和3年度
(予算)

児童クラブ

子ども教室

のびるんdeスクール(12校)

放課後事業総額 1,043,155千円

市負担総額(A)

321,061千円

対象児童数(B)

4,500人

児童クラブ、子ども教室:約3,500人
のびるんde登録率(30%):約1,000人

1人あたり市負担額
(A/B)

71千円

全校
完全実施後
(目標)

児童クラブ

のびるんdeスクール(52校)

放課後事業総額 1,255,751千円

市負担総額(A)

330,280千円

※のび 全児童の50%(6次総指標)
※児童クラブ 令和3年度予算ベース

対象児童数(B)

20,124人

※R4児童数予測

10,000人

※全児童の50%(6次総指標)

1人あたり市負担額
(A/B)

33千円

11. 見直しに伴う「利用料金」の考え方(案)

	現行	(案)令和4年度～
利用料金	<p>月 3,000円</p> <p>月 20回 程度</p>	<p><u>1回 300円</u></p> <p>(児童クラブ日額 297円)</p>
備考	<p>○月によって回数に変動がある。 (感染症・荒天等により、中止となる場合がある。)</p>	<p>○平等性の確立(実績払い) ※開設日に変動があっても対応可能</p> <p>○今後、地域ごとに活動内容が変わる(回数増など)場合にも対応可能。</p>

本市の放課後児童事業

全児童 一体・連携

■児童クラブ



■のびるんdeスクール

のびるん

